

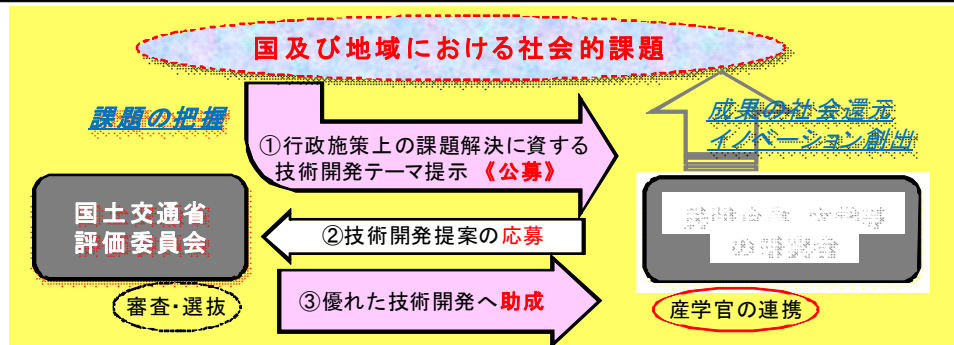
# I 平成24年度建設技術研究開発助成制度 公募概要

## 建設技術研究開発助成制度 —H24年度実施内容—

### 制度概要

国土交通省大臣官房技術調査課

国や地域の諸課題(地球温暖化、社会インフラの老朽化、少子高齢化等)の解決に資するための技術開発テーマを国土交通省が示し、そのテーマに対し民間企業や大学等の先駆的な技術開発提案を公募し、優れた技術開発を選抜し助成する競争的資金制度。



【政策課題解決型技術開発公募、震災対応型技術開発公募(新規)】

	応募資格	交付額(上限)	期間(上限)	備考
政策課題解決型(一般タイプ)	民間企業、大学等(共同研究も可)	3,500万円(総額) (年度上限額:1,500万円)	3年	
政策課題解決型(中小企業タイプ)	中小企業(大学等との共同研究も可)	1,000万円(1年目) 2,500万円(2~3年目の総額) (年度上限額:1,500万円)	3年	1年目は事前調査 2年目は選抜
震災対応型	民間企業、大学等(共同研究も可)	2,000万円(総額) (年度上限額:1,100万円)	2年	

### 実施内容

#### □政策課題解決型(一般タイプ)

新成長戦略及び第4期科学技術基本計画(閣議決定)、科学・技術重点施策アクションプラン(総合科学技術会議等)を踏まえ、**国土交通政策上重要課題を解決するため技術研究開発**に重点化を図る。  
(技術開発課題: 自然災害被害軽減、ストックマネジメント)

#### □政策課題解決型(中小企業タイプ)

新成長戦略や第4期科学技術基本計画において、中小企業技術革新制度の推進が謳われていることを踏まえ、地域の地理的又は社会的な状況に精通し、地域の活力を支える中小企業を主な対象とした技術研究開発を支援する枠組みを構築し、**地域課題の解決を通じ地域活性化**を促す。1年目は事前調査(F/S)、事前調査を踏まえ半分程度に絞り込み、2年目以降は研究開発(R&D)に対し助成を実施。

(技術開発課題: 地域の地形・地質、気象、文化等の実情に応じた課題解決に資する技術研究開発)

#### □震災対応型

東日本大震災を踏まえ、緊急性・重要性の高い技術研究開発を促進するため、**液状化対策に関する課題を設定**し、民間・大学の優れた技術研究開発に対し、競争的資金により助成。

(技術開発課題: 液状化被害予測に関する技術研究開発)

【政策課題解決型技術開発公募(中小企業タイプ)について】

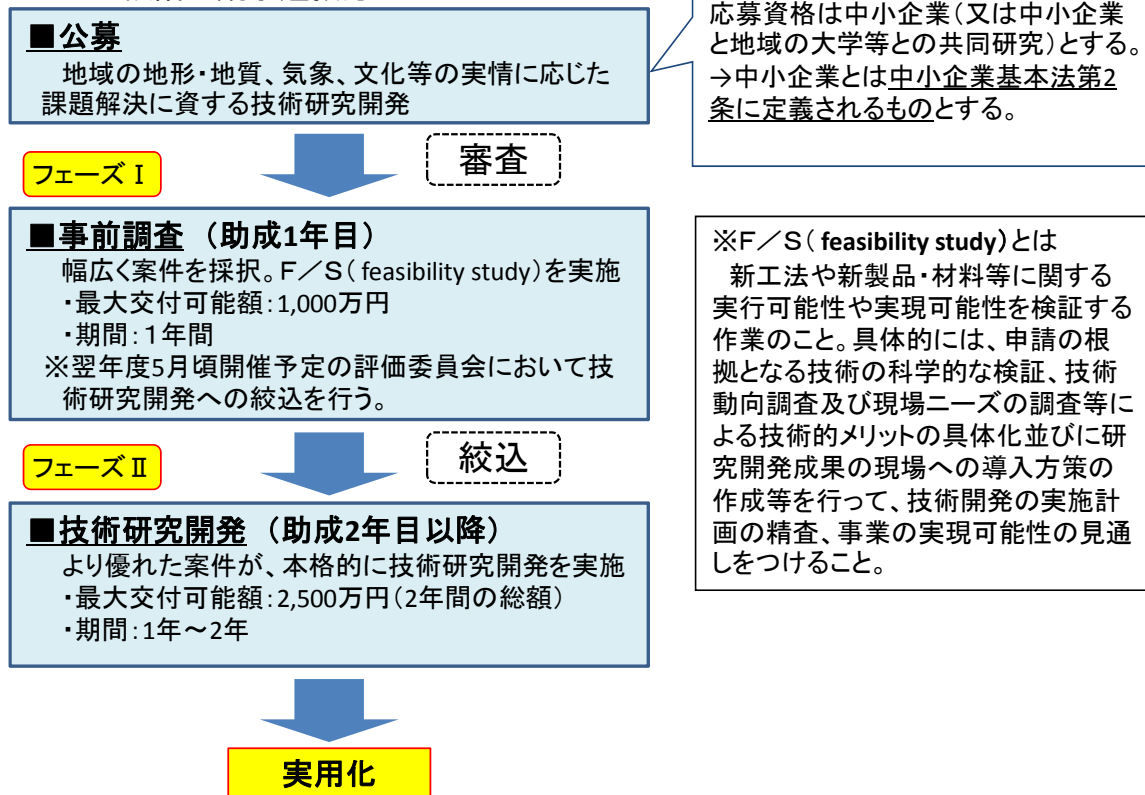
政策課題解決型技術開発公募(中小企業タイプ)は、中小企業の優れた技術開発を支援し実用化を促進する制度であり、段階的競争選抜方式により実施する。

具体的には、地域課題の解決に資する技術開発提案について、その技術開発を行うための事前調査(F/S)と、本格的な技術開発(R&D)に補助金を交付するものであり、F/S終了後にその結果を評価し、R&Dへ移行する技術開発提案を絞り込むものである。

＜ポイント＞

- 埋もれた技術・アイデアを有する中小企業を発掘
- 中小企業者の参入機会を広げ、幅広い可能性を検討
- 事前調査後、絞り込みして技術研究開発を実施。実用化の質の向上が可能

＜段階的競争選抜方式のフロー＞



【技術研究開発の公募テーマ】

## 政策課題解決型技術開発公募(一般タイプ)

民間企業、大学等を対象とした、国土交通政策上の重要課題に対する研究開発テーマ。  
交付額・期間は3,500万円・3年間を上限(年度毎の上限額:1,500万円)。

### 【政策課題テーマ1】

「自然災害(地震、風水害等)による住宅・公共インフラ被害軽減、迅速な復旧・復興に係る技術研究開発」  
(技術研究開発例)

- ・発災時に機能喪失を防ぐための住宅・公共インフラ施設の強化工法に関する技術開発
- ・発災後の住宅・公共インフラの迅速な応急対策(補強)工法に関する技術開発
- ・災害現場における復旧工事等のための、無人化施工技術の高度化(適用可能な現場条件、工種等の拡張)に関する技術開発

### 【政策課題テーマ2】

「持続可能な社会の実現に向けた住宅・公共インフラの老朽化対策に資する既存ストックの高度化、長寿命化に関する技術研究開発」  
(技術研究開発例)

- ・住宅・公共インフラの既存ストックのより経済的な点検・評価手法に関する技術開発
- ・従来技術と比べ、より効果的・効率的な補修・補強工法に関する技術開発
- ・住宅・社会インフラのライフサイクルコストの低減に資する材料・設計・管理手法等に関する技術開発

## 政策課題解決型技術開発公募(中小企業タイプ)

地域の活力を支える中小企業(又は中小企業と地域の大学等との共同研究)を対象とした、地域的課題に対する研究開発テーマ。段階的競争選抜方式を適用し、F/Sとして1年目に採用した提案を、2年目に絞込む。F/S(1年間)における交付額は1,000万円を上限。R&Dにおける交付額・期間は2,500万円・2年間を上限(年度毎の上限額:1,500万円)。

### 【テーマ】

「地域の地形・地質、気象、文化等の実情に応じた課題解決のための建設技術に関する技術研究開発」  
(技術研究開発例)

- ・地域の災害被害軽減に資する技術開発
- ・既設の地下構造物が輻輳する箇所において効率的・効果的に施工を行うための技術開発
- ・地域特有の動植物や景観に配慮した現場施工技術の開発
- ・積雪寒冷地域に適した舗装・舗装補修、融雪、視程障害適応技術の開発
- ・野生動物におけるロードキル対策のための技術開発

## 震災対応型技術開発公募

民間企業、大学等を対象とした東日本大震災を踏まえ、緊急性・重要性の高い液状化対策に係る技術研究開発テーマ。

交付額・期間は2,000万円・2年間を上限(年度毎の上限額:1,100万円)。

### 【テーマ】

「宅地・公共インフラにおけるより経済的で高精度な液状化被害予測に関する技術研究開発」  
(技術研究開発例)

- ・液状化被害予測のための地盤情報取得手法の大幅なコスト縮減に関する技術開発
- ・液状化被害予測(発生の有無の判定、変形量及び沈下量・変位量の予測精度等)の向上に関する技術開発
- ・液状化対策を施した地盤における防止効果の的確な判定に関する技術開発
- ・一度液状化した地盤において再液状化の危険度を合理的に予測する技術開発

## II 建設技術研究開発助成制度評価委員会

研究開発課題の公募テーマに係る検討、応募課題の審査及び研究開発成果の評価は、学識経験者等からなる建設技術研究開発助成制度評価委員会において行いました。

### ○建設技術研究開発助成制度評価委員会委員一覧

委員長	神田 順	日本大学理工学部建築学科特任教授
副委員長	林 良嗣	名古屋大学大学院環境学研究科教授
委員	加藤 信介	東京大学生産技術研究所第5部教授
〃	久保 猛志	金沢工業大学環境・建築学部教授
〃	新宮 清志	日本大学理工学部特任教授
〃	田中 哮義	京都大学名誉教授
〃	田中 仁	東北大学大学院工学研究科教授
〃	津野 洋	大阪産業大学人間環境学部生活環境学科教授
〃	二羽 淳一郎	東京工業大学大学院理工学研究科教授
〃	深尾 精一	首都大学東京都市環境学部教授
〃	榊田 佳寛	宇都宮大学大学院工学研究科 地球環境デザイン学専攻教授
〃	道奥 康治	神戸大学大学院工学研究科教授
〃	安田 進	東京電機大学理工学部建築/都市環境学系教授
〃	山口 栄輝	九州工業大学大学院工学研究院 建設社会工学研究系教授
〃	竹之内 博行	一般社団法人日本建設機械施工協会 施工技術総合研究所技師長
〃	村西 正実	国土交通省大臣官房技術調査課建設技術政策分析官
〃	牧 哲史	国土交通省国土技術政策総合研究所 企画部評価研究官

(以上 敬称略)

## ○液状化対策技術審査部会

委員	龍岡 文夫	東京理科大学理工学部土木工学科教授
〃	安田 進	東京電機大学理工学部建築/都市環境学系教授
〃	岸田 隆夫	公益社団法人地盤工学会副会長
〃	村西 正実	国土交通省大臣官房技術調査課 建設技術政策分析官
〃	日野 康彦	国土交通省都市局都市安全課 都市防災対策推進室長
〃	明石 達生	国土交通省国土技術政策総合研究所 都市計画研究室長

(以上 敬称略)